令和６年度　学校評価

本年度の 重点目標	ア　高校を卒業したいという生徒の思いに応えるとともに、卒業後の進路を見通した指導の充実を図る。 イ　授業規律の確立に努め、すべての生徒が学習意欲を持てるように基礎学力の定着を図る。 ウ　思いやりの気持ちを育て、いじめや暴力を根絶することで安心・安全な環境を維持する。 エ　集団生活を通じて社会の規律を学ばせ、コミュニケーション能力を育む。 オ　多様な生徒へのきめ細かな対応を組織的に行う。 カ　組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底する。 キ　円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 （生徒指導部）	規範意識を高め、望ましい人間関係を構築させるための社会性の育成	生徒との関わり合いを、積極的に行い、生徒の状況把握に努める。また、教員間での情報交換を頻繁に行い全職員で対応できるようにする。	始業前の校門指導から、授業巡回、給食時間中の校内巡回を行う中で生徒とのコミュニケーションを積極的に行った。生徒から収集した情報を教員間で共有することにより、問題行動の予防、早期発見に努めた。特に、個別指導に係わる場合は、全職員で対応にあたり生徒の指導日誌等を回覧したりするなどして、より効果的な指導につながるような環境作りに努めた。また、職員会議ごとに生徒情報交換を行い、個に応じた指導を行うことができた。これからも継続して生徒との距離感を大切にしながら、表面化しにくい事例についても迅速に対応し、安心して生活できる環境作りに努めていきたい。 遅刻が常習化している生徒にも粘り強く指導をし、遅刻指導を徹底することにより、学校全体の遅刻数を昨年よりも減らすことができた。遅刻。卒業後の進路選択のイメージをもたせながら、将来に向けて、今、遅刻・欠席をしないことを生徒一人ひとりに周知徹底することが課題である。
	いじめの防止または早期発見、適切な事案対処	アンケート調査、個人面談を実施し、それらの結果を検証し、いじめの防止または早期発見、適切な対応につなげる。 教職員がいじめを発見したり相談を受けたりした場合には、速やかに学校いじめ対策組織に報告し、組織的対応につなげる。	いじめについては、担任や教科担当の日常での細やかな生徒観察により、いじめに繋がりかねない事案の早期発見をすることができた。また、学期ごとに「心のアンケート」と称したいじめに対するアンケートを行い、個人面談で担任より話を聞いていただき早期発見に努めた。被害を被っている生徒の状況を最優先に考える事等，学校のいじめへの対応について生徒・保護者へより分かりやすく周知することが今後の課題である。 生徒指導講話について１回目は一宮警察スクールサポーターの田中氏、２回目は津島高校の若松氏を講師として招き実施した。実体験や実例が多く生徒が真剣な表情で聞いており、出席率も高かった。
学習指導 （教務部）	授業規律の確立と生徒の多様化に応じた授業の工夫	個々の生徒に応じた授業の改善と学力の定着を図る。	学年と教科担任の連携のもと、学習に向かう姿勢づくりを継続して行った。チャイムと同時に授業を開始し、授業中の私語も少なく、落ち着いた学習環境を維持することができた。各教科では、授業の導入の工夫を行い、生徒の集中力の向上に努めた。100マス計算や漢字の書き取りなどの基礎学力の定着を図った。徐々にグループ学習やワークシート作成などが行えるようになったことで言語活動の充実を図った。 一人一台支給されたタブレットを用いて、調べ学習以外にもWordで卒業文集を書かせるなど、授業やＬＴの中で上手く活用した。これ以外にも様々な教科において、生徒の思考力や表現力を育てていけるような工夫したタブレットの活用方法が課題である。 授業・課題への取り組みについても、個々に応じてしっかり観点別評価を行った。期末考査前には学習強化週間を設け、成績不振者に対して補充授業を行うなど学習内容の定着を図った。課題提出の指導も各教科で個別に行った。 欠課時数の多い者に対しては、前向きに学校生活に取り組めるよう、学年や教科担任と連携して対応した。外国にルーツを持つ生徒が日本語能力不足のために学力不振に陥ることがないよう、より一層のサポート体制を整えることが課題である。

進路指導 （進路指導係）	進路希望の実現	個々の生徒に応じた授業の改善と学力の定着を図る。	生徒の職業意識を高めるために、１、２年生には職業適性検査とその説明会を実施した。４年生には進路に関するグループワークを数回にわたり実施したり、社労士の方を招いて、職業人として必要な知識と意識を身につけさせた。 また、全体に対しても進路希望調査を学期ごとに行い、現状を把握するとともに、将来を見据えて高校生活を送れるよう意識付けを行った。 さらに７月に進路講話の１回目を実施し、３月に２回目を行う予定で、上級学校や企業の方の話を聞かせ、より具体的な職業イメージを持たせている。 就職指導においては担任教師の協力のもと、個々の生徒の状況に対応した指導を心掛けた。一方で進学希望者に対しても、担任教師と連携を取りながら適切に指導した。結果として、就職・進学希望者の全員が内定・合格を得ることができた。
保健・衛生指導 （保健部）	健康の保持増進と健康生活の実践力の育成	健康診断及び事後指導の充実と「保健だより」などにより自己の健康管理意識を高めるとともに、養護教諭を中心とした教育相談活動を充実させ、心の健康教育の充実を図る。 健康観察を徹底し、生徒の心身状態の変化に早く気づき、早めに対処できるよう教職員間で情報交換を活発にし、生徒の心身の健康課題について問題の早期解決を図る。	生徒の精神面・健康面をサポートするためにスクールカウンセラーと密に連絡を取り、綿密な準備をしてカウンセリングを実施した。スクールカウンセラーによる現職教育を実施することで教員の意識を高めるよう配慮した。今後の課題として、生徒の実態把握をしっかりできるように生徒観察をさらに充実させ、情報の共有を図りより細やかな生徒指導ができるよう配慮したい。また、例年通り「保健だより」を発行することや掲示物で健康に関する注意喚起を行った。生徒の色覚異常についても保護者の同意を得て検査を実施した。
給食指導 （保健部）	安心、安全な給食の提供	定期点検の実施及び食育の充実を図る	食に興味を持ってもらうために食材に関わる情報や食文化についての掲示物を給食室に掲出した。メニュー作成に生徒の声を取り入れるようにしてその意見を反映できるようにした。魚や野菜離れの傾向がみられるので、メニューに工夫を加え食べやすくなるように配慮した。手洗いの徹底や食事中の携帯電話の使用禁止を指導することで衛生面の対策を実施した。手洗いに関しては意識を持って実施してくれている。
ＰＴＡ活動と情報発信 （総務部）	保護者との日頃からの信頼関係の構築と地域との連携の強化	「学校評価アンケート」の実施、及び中学校との連携を更に強化する。	２学期の第２回保護者会時に参加の保護者に「学校評価アンケート」を実施し、ＰＴＡ理事会、総会を通して、保護者の意見・要望を聞く機会を確保した。本校志望者に対する学校見学を１年を通して可能な限り積極的に実施し、地元中学との信頼関係の醸成に努めた。
部活動・生徒会活動 （生徒会係）	部活動の積極的な参加と学校への帰属意識の向上	部活動参加率の向上を図るとともに、生徒が意欲的に企画し、意欲的に参加できる行事を工夫する。	部活動は各部活ともよく活動し、柔道部は全国大会女子団体戦で優勝し、東海大会でも個人優勝した。バドミントン部は全国大会に出場し、東海大会でベスト４になった。バスケットボール部は秋季大会で優勝した。上位の大会でも好成績を収め、日々の練習の成果が出ている。また本校は文化部がないが、生活体験発表大会も３位に入賞し、文化面においても生徒の活躍が窺える。 生徒会行事については、遠足やボウリング大会、映画鑑賞を実施することができ、生徒の出席率・満足度も高かった。校内行事は、予餞会、スポーツ大会、文化祭を行った。新生徒会執行部の意識も高く、有志の生徒も積極的に手伝いに参加するなど、行事へ主体的に取り組む生徒が増えている。
学校図書館 （図書係）	図書館利用のいっそうの拡大	「図書だより」の発行と図書館利用の推進を図る。	国語の授業、LT等を通して、生徒が興味関心を示しやすい図書の紹介に努めるなど、読書への興味関心を促した。

教員の健康維持に配慮した体制の構築	勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	在校時間状況記録を点検し、検討する。	在校時間等の状況記録の集計結果等を毎月の安全衛生委員会で確認した。 すべての職員において１か月間の時間外労働は少なく抑えられていたが、その中でも比較的多い職員に対しては管理職及び主任による業務内容の確認や面接を行い、職員の健康障害防止に努めた。
総合評価		新型コロナウイルス等の感染症に対する対策、落ち着いた学習環境の維持、生徒個々に関する情報共有を教育活動全体において徹底するとともに、基礎学力の定着に向けた取組みを継続している。 また、定通総体において柔道部が全国大会女子団体優勝するなど、多くの生徒が部活動や生徒会活動などに積極的に参加し、学校生活を充実させ、心身共に成長することができた。 進学や就職活動においても個々の目標に応じた指導を行い、成果を上げることができた。	